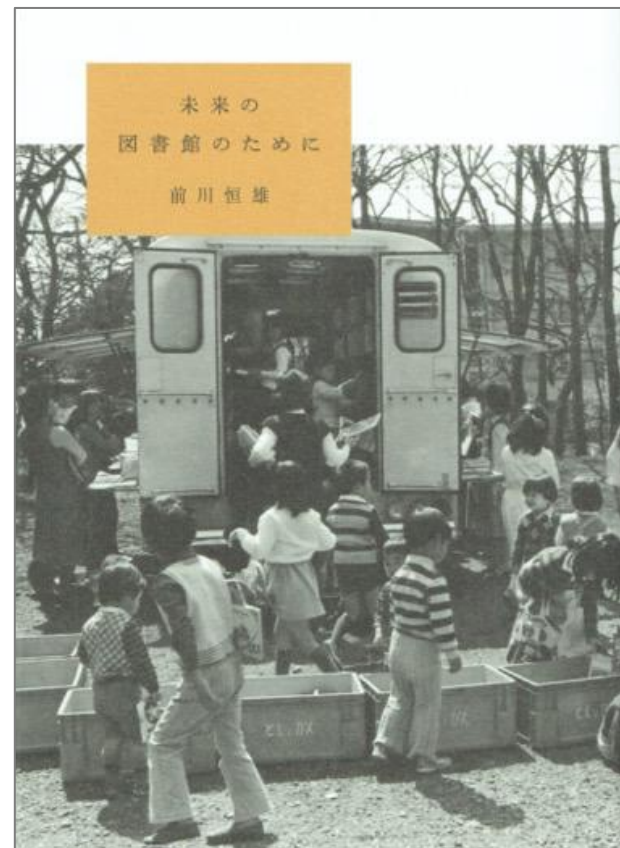


10月3日
取次搬入

『未来の図書館のために』 前川恒雄著

夏葉社 15周年一括重版。司書の皆様から特にリクエストの高かった1冊です。

1960年代、東京の日野市で1台の移動図書館が活動をはじめます。その図書館は、研究のための資料収集ではなく、市民が欲する本を購入し、取り寄せ、本を貸し出すことで市民と対話し、ともに成長する身近な図書館として、人々の生活に根付いていきます（逆にいえば、それまでの図書館は積極的に本を貸し出さなかったのです）。当時の図書館長であった前川恒雄は図書館の本が充実し、利用する市民が増えれば、そのことがよりよい社会につながっていくと信じた。そして、その活動と理念は、日本の全国の図書館に強い影響を与えました。本書は2020年に亡くなった前川恒雄の遺稿集です。「日野市立図書館が目指したもの」という論考にはじまり、『移動図書館ひまわり号』以外の仕事の私的で生々しい記録と、晩年まで滋賀県の会報で連載していた現在の図書館にたいする思いの3つによって構成されています。図書館が大きく変容していこうとする今、最後まで図書館の可能性と未来について考えた、著者の言葉に耳を傾けたいです。



価格：1800+税 / 176頁
四六判変形 / ハードカバー ISBN 978-4-904816-35-6 C0000
取次：JRC（すべての取次からの搬入が可能です）

ご注文は JRCへ FAX：03-3294-2177 電話：03-5283-2230

貴店名
部数 冊
ご担当者様
<p style="text-align: center;">発行 夏葉社</p> <p style="text-align: center;">未来の図書館のために</p> <p style="text-align: center;">前川恒雄 著</p> <p style="text-align: center;">本体1800円+税</p>